

科学と社会委員会（第24期・第7回）議事要旨

1 日 時 平成30年10月4日（木） 12:20～13:05

2 場 所 日本学術会議5階 5-C（1）会議室

3 出席者 渡辺 美代子（副会長・委員長）、小林 傳司（第一部会員・副委員長）、
高橋 桂子（第三部会員・幹事）、遠藤 薫（第一部会員）、藤原 聖子（第一部会員）、
松浦 純（第一部会員）、古谷 研（第二部会員）、坪井 俊（第三部会員）、
藤井 良一（第三部会員）

（欠席） 小安 重夫（第二部会員・幹事）、甲斐 知恵子（第二部会員）、
西村 いくこ（第二部会員）、平井 みどり（第二部会員）、中村 崇（第三部会員）、
沖 大幹（連携会員）、蟹江 憲史（連携会員）

（事務局） 犬塚参事官、酒井参事官補佐、鳥生審議専門職

4 議事要旨

（1）科学と社会企画分科会からの報告と課題

●渡辺委員長より、資料1-1及び1-2に基づき、科学と社会企画分科会及びそこで審議された日本の展望に続く提言について報告があり、以下の補足があった。

・科学と社会企画分科会の審議に基づく提案を10月3日の幹事会懇談会で行い、先ずは10月25日の幹事会で体制作りを行うこととなった。

●上記に基づき意見交換があった。概要は以下の通り。

・前回の日本の展望の内容をある程度引き継ぐものにする必要があるだろう。

・「提言」という形式は堅苦しいので、もっと国民に親しみやすい形式が良いのではないか。

・学術会議が議論を積み重ねて社会に提案するものなのだから、やはり「提言」とすべきではないか。

（2）提言等の見える化について

●藤原委員より、資料2-1～2-3に基づき、インパクト・レポートの改訂等について説明があり、意見交換があった。概要は以下のとおり。

・資料2-2については、案1が分かりやすい。掲載の順番は「ポイント」→「インパクト」が良いだろう。

・現状のインパクト・レポートは1年後に作成し、その後のフォローが無い。1年が過ぎた後もインパクト・レポートを改訂出来れば、どう活用されているかが分かる。

・資料2-3の動画やリンクについては、どこまでやれるか事務局に確認したい。

・会長が行っている記者懇談会でアピールしてはどうか。

→記者に関心のあるものでなければ取り上げてもらえないので、見せ方を工夫する必要があるだろう。

●本件については委員に考えて頂き、次回委員会で時間を取って審議することとなった。

（3）主張が異なる提言や報告の対応について

●高橋幹事より、以下の通り説明があった。

・（私が委員長を務める）危機対応科学情報発信組織準備委員会では、難しい問題に対し、

学術会議の意見をワンボイスにするかどうかを検討している。

- 一つの方法として、意見分布を示し、それぞれに丁寧な説明を加えていくというのがある。
- 一方で、提言等の結論に対し、違う意見を認めるのが重要ではないか。それらの意見に言及した上で、科学としてはこう考える、という形なら、提言の科学としての意味は保たれるのではないか。
- 以上をお示しした上で、科学と社会委員会のご意見を頂き、それを再度、危機対応科学情報発信組織準備委員会に持ち帰って検討した上で、幹事会に提案したい。

●上記に基づき意見交換があった。概要は以下の通り。

- 査読の際、提言作成委員会等がチェックシートに関連する提言等を書くようになっているが、どこが同じでどこが違うかを具体的に書くようにし、査読者もそれをよく確認するようにしてはどうか。
- 全ての提言等に対してそれを行うのは査読者の負担が増えるので、社会的に重要な問題に係る提言等についてのみ行うのなら理解できる。

以 上